

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600074		
法人名	社会福祉法人 大恵会		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	栃木県日光市塩野室町1902番地125		
自己評価作成日	平成25年2月8日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、自分の家と同じように安心して過ごせるよう、一人一人がその有する能力に応じて自立した日常生活を支援していく

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所して約2年の事業所です。日常生活の中で利用者一人ひとりの役割分担が確立されてきています。職員が声をかけなくても、毎朝9時になると利用者が掃除を始めます。玄関や庭先を掃く人、フロアを掃く人、手すりを拭く人と自然に決まってきた分担だといいます。食事の準備では、「餃子なんて食べたことないよ。」と言っていた利用者が、職員が餃子を包む姿を見て、いつの間にか慣れた手つきで餃子を上手に包んでいました。「これは〇〇さんが作ったんですよ。上手ですね。きっと昔作ってたんですね。」と食卓が賑いました。食事の後、職員の間に入り後片付けする姿はとても活き活きとしていました。椅子に座っているのが申し訳ないと思っている利用者が多く、何か手伝いたいという雰囲気になっているといいます。職員は利用者の何気ない言動に隠されている思い、そして「今、何ができるか」をととても重要と考え、現状に甘んじることなく向上心を持って支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人大恵会の基本理念である「人間性の尊重とノーマライゼーション」をふまえ、健康に明るく楽しく、安心して暮らせる居場所を職員一同、力を合わせ作り上げています。	「健康に明るく楽しく、安心して暮らせる居場所」を理念とし、毎月の会議の中で確認しています。また、理念を実践する上で必要不可欠な接遇やプライバシーの確保等、法人本体から通知や指導があり、日々の支援に活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(獅子舞)の参加や、ゴミステーションの清掃なども、職員と共にこなしている。	別荘用に分譲された地域のため自治会がなく、居住率も半分程度です。当番でゴミステーションの清掃があり、利用者と職員が一緒に行っています。事業所のペランダから散歩する住民と挨拶したり、一緒に散歩したりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員の方や、地域の方に運営推進委員になって頂き施設に度々足を運んで頂き入居者様の暮らしぶりを見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の方には毎回出席頂き、入居者様の状況、行事報告、事故・ヒヤリハットの報告や情報交換をさせていただいています。	参加者は市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地域の方、家族の代表などです。利用者の家族も高齢となり、家族から病院受診支援の要望が出ています。また、地域の行事の確認ができ、隣接地区の敬老会に招待されました。	推進委員会は充実されていますが、家族の代表は固定せずに、順番でお願いするとか、地域の防犯の観点から、消防署や交番からの参加を頂くことを提案します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の運営委員として毎回出席頂き情報交換をさせて頂いています。	市の担当者から地域の行事の情報、案内を頂いたり、利用者についての相談が出来ています。市内の他の事業所との連携もあり、なんでも相談出来る関係が出来ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関等の施錠は行っていません。ミーティングなどに身体拘束の資料を用意し職員全員で学習し理解を深めています。	身体拘束に関する資料があり、職員全員で読み合わせを行い、理解を深めています。また、法人本体での研修にも参加し、今後は事例検討等も含めた内容を考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時など全身の状態の観察には慎重に行っております。入所申し込みを頂いた時の自宅訪問の際にも注意をはらいながらお話を聞くようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関しては、まだまだ理解不足に感じます。学ぶ機会を持って行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、家族様と入居者様に必ず来て頂き契約書・重要事項説明書をお互い見ながら読み上げて説明し、不明な点がないか確認し納得して頂いて契約をしている。後日電話、訪問等の質問にも快く対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に御意見箱を設置している。家族様には日頃からコミュニケーションを密にとり、話しやすい雰囲気作りに努めている。帰りの際には必ずお見送りをしながら何かお困りの点があるかどうか確認をしている。	御意見箱の利用はないが、直接、家族から職員への相談が寄せられています。例えば、10分おきにトイレに行っているのは泌尿器科、精神科いずれを受診すれば良いのかなどの相談が寄せられました。話しやすい雰囲気づくりを心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の時やミーティングの際に色々な意見を出して頂いたり、申し送りノートを活用し意見や提案を聞くようにしている。提案があった時は必ず否定はせず、まず試しにやってみてから結論をだすようにしている。	申し送りノートを活用し、職員からの意見や提案を取り上げています。毎日の食事作りに必要な食材の調達には生協を利用していますが、職員の提案から始まり現在も継続しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意向調査を行い、今思っている事や今後取得したい資格、参加したい研修会等を出して頂き各自向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加すると共に、サービスの質の向上の為に資格取得に力を入れています。トレーニングに関しては固定の職員がマンツーマンで付き業務の流れ、技術を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	疑問に思った事は、地域の同業者に連絡を取り相談にのって頂いている。今後の予定として職員同志の交流会を計画しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の状態を良く観察し、傾聴し本人の意向に添うよう入居者様の立場に合う対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困っている事や不安、要望については出来る限り対応しているが、家族様の協力も不可欠であることをお話させて頂き理解をえている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に対しての申し込み時や本人との面接時に、自宅での介護方法や利用しているサービスを確認し、必要な支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来ること今までしていた事を日常生活に取り入れ入居者様様と共にしながら適時職員側がサポートするといった視点で取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお伝えしたり、家族様との関わりを大切にしている。依頼があった時は、家族様への電話も取りついている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の知人の面会や地域の行事などに参加出来るよう支援している。近所へのドライブ等も取り入れている。	かなり遠方からの利用者もいるため、馴染みの場所へ出かけることは難しい場合があります。できる範囲で知人が働いている職場へドライブがてら出かけたたり、かかりつけのパーマ屋さんに出かける等工夫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態を見ながら食事の席を配置したり、入居者様の関わり合いを良く観察し、職員同志での情報交換をし、居心地良く過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族様の経過をフォローし相談や支援に努めていけるようこれまでの関係を大切にしていこう努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様への確認と家族様への確認を併用して実施している。又職員間での情報交換を密にし、希望、意向の把握に努めている。	普段の生活の中で利用者の意向を把握し、一人ひとりの要望を大切にしています。話しかけても、うなづく程度で殆ど喋らない利用者が、夢をきっかけにしてけんちん汁を作ると言い出したことがあり、殆どひとりで作り上げたといっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様から自宅での生活の様子を確認している。必要時には、面会時や電話で伺うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を記録している。本人の気持ちを尊重し生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施している。その他状態変化や病院受診時に付いてもカンファレンスを行い個別介護計画を作成している。	ご本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意向を聞き、計画に反映させています。職員会議の中で利用者の状態やケアの方法等について検討はされていますが、一堂に会しての話し合いは持たれてはいないようです。	担当者会議が実施されているが、本人・家族の同席を得る工夫が求められます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なサービスは何か、必要時にはカンファレンスを行い今、必要としているサービスを心がけている。常に入居者様や家族様の意向も把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。誕生会やその他の行事にはボランティアの方に来て頂き、歌や踊りを教えて頂いている。天気の良い日には、散歩にて自然とのふれあいを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に係付けの病院がある為、定期受診や薬等は家族様と共に受診をお願いしている。体調の変化で受診が必要な時は、家族様と連絡を取り合って、適切に対応している。	定期通院は家族対応としています。緊急時の通院も家族対応が基本ですが、都合がつかない場合は職員が代行しています。家族も高齢になっており、通院受診が頼めないかの要望があります。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、何か日常の関わりで気づいた事は介護職員で意見交換をし対応又は家族様に相談し受診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、病院関係者と職員が面会し入居者様について出来るだけ詳しく意見交換をしている。入院中は、時々見舞いに行き看護師、家族様から情報を頂き、施設との関係維持に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期には関係施設又は、他の施設や病院に移って頂くよう入居申し込みの時に家族様や本人に説明させて頂いている。	「健康に明るく楽しく、安心して暮らせる居場所」を理念とし、利用者一人ひとりが役割を持ち、第二の住処として活き活きと生活を送っています。しかし、事業所としては、重度化や終末期には物理的、医療的な面で対応できないことを説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを用意し、慌てずに対応出来るよう指導している。6月には応急手当の訓練を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来る限り毎月消防訓練を行うようにしている。6月と12月に総合訓練を行っている6月には消防署の方に来て頂き訓練を行っている。時間も日中だけに限らず夕がたにも行っている。今後地域の方に参加して頂き訓練を行う計画をしている。	消防署の協力を得ての防災訓練が年2回あり、ほぼ毎月実施しています。今年度は実地指導があり、加湿器やタコ足配線の改善指導を受けました。火元確認チェック表などを活用し、防災に努めています。地域を巻き込んだ訓練も計画しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様同士の関係も常に職員間で情報交換し共有している。声かけ等にも十分配慮している。居室訪問する際には必ず声かけをし了解を頂いてから訪室している。今後接遇の勉強会も予定している。	普段から利用者の居室に入る際は、必ず了解を取っています。法人内の研修に参加していますが、今後は外部機関による研修計画を予定しています。常に向上心を持って日々の支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者について得られた情報を念頭にやさしく分かり易く根気よくコミュニケーションをとりながら入居者様のニーズを引き出す事を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ活動的に生活して頂くよう支援はしているが、入居者様の体調、気分に合わせて支援していくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣の際や、入浴の際には一緒に洋服を選びお気に入りの洋服を着て頂いている。散髪には、家族様に連絡をし、なじみの床屋なり美容院に行ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては、野菜の皮むきや切ってもらったりテーブルの準備や配膳、食後の下膳、テーブル拭き、食器洗いの担当者が自然と決まっており、皆で協力して行っている。	利用者と職員と一緒にメニュー表を見て献立を立てています。食事の準備、調理や後片付けも一緒に行っています。利用者の中で自然と役割ができています。好き嫌いがある方には、無理強いをせず出来る範囲で代替食が用意されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は、毎回チェックさせて頂いております。一日の摂取量を記録し、食事、水分がなかなか取れない方には家族様と相談をし、好みの物や栄養の取れる代替えの物を提供させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて出来るかたには、声かけや見守りをさせて頂き、介助が必要な方には、職員が介助にて口腔ケア及び洗浄を行っている。就寝時には、毎日ボリドントの使用をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握の為記録を付けている。個々のパターンに応じ小さな声での声かけ、誘導等の排泄の支援をしている。リハビリ、パット使用の方には、時間や行動パターンを把握し出来るだけトイレに間に合うような介助をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を基本としています。毎朝9時から行っている掃除やテレビ体操への参加が筋力維持につながり、排泄へ良い影響を及ぼしているようです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝9時からの掃除やテレビ体操に全員での参加呼びかけや、ヤクルト、牛乳、食事などに気を配り便秘予防に気を付けております。係付けの医師に相談し便秘薬を使用する時もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	最低週2回は入浴して頂いています。体調が悪いと拒否が合った場合は無理に進めず、次の日の気分により入浴して頂いております。バスクリンや好きな音楽をかけたりもしていません。	週2回の入浴が基本ですが、拒否される利用者があります。無理強いはいしないで、曜日を変更する等で対応しています。週2回の入浴と日中の入浴を改善したい思いがあり、今後の検討課題としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人のその日の気分に応じ対応しております。お昼寝をされたりした時は、居室の空調の調節などの介助をさせて頂いている。風邪等の病時には加湿器を置き対応している。週1回のリネン交換布団干し等もやっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋の把握をし、変更時には、申し送りやノートにて職員に伝えている。次回の受診までは、様子を伝えられるよう細かく記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の体調、気分配慮しながら個々の能力を最大限に引き出せるよう役割を持って生活して頂いている。入居者様が作品を作ったものは、使用したり、リビングに飾ったり、家族様へプレゼントにしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外食、果物狩り、外でのパーベキュー、などまめに行っております。外食の際には、家族様にも声かけをし一緒に参加して頂いております。入居者様から買い物に行かないの？などと声をかけられた時はなるべく対応している。	多人数での外出は、法人本体から大型の自動車を借りて出かせます。一人ひとりの要望に添えるように、努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は財布、出納帳を用意し施設にて管理している。買い物の際持参し、個々に支払いをしていただいたり、介助にて行ったりと力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望の際は、電話の取り次ぎをしている。レターセットやハガキの要望にも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りをしたり、花を飾ったりと季節感をだしている。清潔な環境で過ごしていただいている。暖かくなるとベランダでのお茶や食事をして、季節を感じて頂いている。	リビングを中心に居室が配置されています。リビングは吹き抜けになっており、天井からの光とベランダから差し込む光とで実際よりも広く明るい感じを受けます。わずかだが畳のスペースがあり、利用者が並んで談笑する姿が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングより少し離れた所に畳スペースがあり、テーブルと座布団を置き横になったり、気の合った入居者様同士で思い思いに過ごしたり、時には一人で過ごしたりとしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等には日頃から使い慣れたものを置いていただいたり、写真を置いたり入居者様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は洋式ですが、じゅうたんを敷き、炬燵を設置していつでも横になれるようになっていました。炬燵をテーブル代わりにしていたり、家庭から使い慣れた家具を持ち込もなど、安らげる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには分かりやすい表示をしている。廊下、トイレ、浴室、玄関等にも手すりを付け段差もなく安全性を確保している。出来る事は、安全性を重視し出来るだけやって頂いている。		